



環境かわら版

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo-c/0000007029.html>

令和元年8月号（第279号）



2018年度ダイオキシン類調査結果……………P2

愛知県が「SDGs未来都市」に選定されました。

本県は、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い地域として、7月1日に内閣府から「SDGs未来都市」に選定され、安倍内閣総理大臣から大村知事に「SDGs未来都市選定証」が授与されました。



【写真右から】

3番目・大村知事、4番目・安倍内閣総理大臣



かがやけ☆あいちサスティナ研究所第5期目の活動がスタートしました（P3）



エコアクションを
はじめよう！つづけよう！つなげよう！
<http://aichi-eco.com>



愛知県は、ダイオキシン類対策特別措置法第27条第1項に基づき実施した県内の環境調査の結果及び同法第28条第3項に基づき法対象事業者から報告された事業者による測定の結果をとりまとめました。

1 環境調査結果

愛知県は、国土交通省中部地方整備局、4政令市（名古屋市、豊橋市、岡崎市及び豊田市）及びその他13市町とともに、大気環境、水環境（水質、底質、地下水及び水生生物）及び土壌環境について調査を実施しました。

2018年度の結果概要は、下表のとおりです。

調査項目	地点数	濃度範囲	環境基準値	単位
大気	36	0.0087～0.044	0.6	pg-TEQ/m ³
水質	49	0.020～2.0	1	pg-TEQ/L
底質	44	0.059～54	150	pg-TEQ/g
地下水	15	0.014～0.059	1	pg-TEQ/L
土壌	15	0.00096～5.0	1,000	pg-TEQ/g

(注1) 濃度範囲及び環境基準値（大気、水質、地下水）は年間平均値。

(注2) TEQとは、ダイオキシン類は異性体が多く、毒性は異性体ごとに異なるため、異性体の中で最も毒性の強い2,3,7,8-TCDDの量に換算した値として表したものの。

調査項目	地点数	濃度範囲	全国一斉調査結果(1999年度)	単位
水生生物（魚類）	4	0.35～1.5	0.032～33	pg-TEQ/g

大気、底質、地下水及び土壌については、全ての地点で環境基準を達成しました。水質については、5地点を除き環境基準を達成しました。

また、水生生物（魚類）については、国が1999年度に行った全国一斉調査結果の範囲内でした（環境基準は定められていません）。

2 事業者による測定結果（4政令市分を除く）

法対象事業者は、法に基づき、毎年1回以上の排出ガス、排水及びばいじん等に含まれるダイオキ

シン類濃度の測定を行い、その結果を知事に報告することが義務付けられています。

2018年度の測定・報告状況の概要は、下表のとおりです。

測定項目	報告済施設数	（基準不適合）施設数	未報告施設数
排出ガス	300	(2)	1
排水	24	(0)	0
ばいじん及び燃え殻	165	(0)	2

(注1) 報告済施設数は、2018年度末の数を示す（ただし、報告後廃止した施設も含む）。

(注2) 排水の施設数は、事業場数を示す。

(注3) 未報告施設数は、2018年度末の時点で稼働している施設数のうち、未報告の施設数を示す。

排出ガスについては300施設、排水については24事業場から報告があり、2施設の排出ガスを除き排出基準に適合していました。

また、ばいじん及び燃え殻については165施設から報告があり、全て処理基準に適合していました（基準が適用されない施設を除く）。

なお、排出基準を超過した施設に対しては、改善対策の実施を指導しました。

3 今後の対応

ダイオキシン類による汚染の状況を監視するため、法に基づき、引き続き環境調査を実施していきます。

また、今後もダイオキシン類に係る事業場に対して、立入検査を継続し、排出基準、処理基準などの遵守状況を把握するとともに、排出削減を指導していきます。

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/>

soshiki/kankyokatsudo/0000007021.html)

〔環境活動推進課 環境リスク対策グループ
電話 052-954-6212（ダイヤルイン）〕



かがやけ☆あいちサスティナ研究所 第5期目の活動がスタートしました



愛知県では、未来のあいちの担い手となる大学生が、グローバルな視点を持って継続的にエコアクションを実施することができるよう、2015年度から大学生を対象とした「人づくり」プログラム「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」を実施しています。

6月30日(日)には、愛知県本庁舎正庁において開所式を開催し、第5期目となる今年度の活動がスタートしました。

当日は、研究所長の大村知事、公募により決定した40名の研究員と10のパートナー企業関係者が一同に会しました。

最初に知事から激励を受けた研究員は、「メンバーの知識や経験を生かし、解決策をしっかりと考えていきたい。」など、チームごとに熱意のこもった抱負を述べました。また、パートナー企業からも研究員への期待が述べられました。

その後は、チームごとに分かれ、研究員とパートナー企業のミーティングを行い、研究課題や今後の研究活動について意見交換を行いました。

なお、研究所の活動状況については、公式ブログで発信していきます。

(<http://sustaina-ken.jugem.jp/>)



抱負を発表する研究員

〔 環境政策課 企画・広報グループ
電話 052-954-6210 (ダイヤルイン) 〕

エコアクションを題材とした マスコットキャラクターを募集しています!



愛知県では、日常生活の中で行う身近な環境配慮行動「エコアクション」を推進する一環として、中学生以下の方を対象に、エコアクションを題材としたマスコットキャラクター(エコキャラ)を募集しています。

1 応募資格

県内に在住の中学生以下の方

2 応募方法

応募用紙に以下の項目を記載の上、郵送又はEメールにより、9月6日(金)までにご応募ください。

【応募項目】

- エコキャラのデザイン・エコキャラの名前
- エコキャラのプロフィールなど(自由記載)
- 名前、園名・学校名、学年、保護者名、連絡先

3 表彰

入賞作品は11月23日(土)、24日(日)に刈谷市で開催する「Let's エコアクション in AICHI」で表彰・展示するとともに、記念品を贈呈します。

4 応募先

応募の受付はこの事業の受託者が行います。

・郵送

〒460-0003 名古屋市中区錦1-8-11

中日本エンジ名古屋(株)内「エコキャラ」事務局

・Eメール

ecoaction.aichi@gmail.com

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/>

[kankyokatsudo/ecochara.html](https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/ecochara.html))

〔 環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208 (ダイヤルイン) 〕

フロン類排出抑制対策に関する講習会 ～管理者向け～を開催します



愛知県では、オゾン層保護対策推進月間の9月に、オゾン層破壊や地球温暖化の原因となるフロン類の排出抑制対策について広く学んでいただくため、「フロン類排出抑制対策に関する講習会」を開催します。全2回開催し、第1回目は、冷凍空調機器を管理されている方を対象に開催します。

多くの方のご参加をお待ちしています。

- 1 日時 9月3日(火) 14:00～16:00
- 2 場所 ウィンクあいち10階 1002会議室
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)
- 3 内容
講演「フロン排出抑制法について」
講師：(一社)日本冷凍空調設備工業連合会
事務局次長 ^{おおさわ つとむ} 大沢 勉 氏
- 4 定員・参加費 150名(申込先着順)・無料

5 申込方法

①社名・団体名 ②所属 ③氏名 ④参加人数
⑤連絡先(電話番号、FAX番号、Eメールアドレス)
を記載の上、郵送、FAX又はEメールによりお申し込みください。

6 申込先

環境局環境政策部水大気環境課

(〒460-8501 住所記載不要)

FAX：052-961-4025

Eメール：mizutaiki@pref.aichi.lg.jp

詳細は、Webページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/mizutaiki/01furonkosyukai.html>)



〔水大気環境課 大気規制グループ
電話 052-954-6215 (ダイヤルイン)〕

「第1回アスベスト対策に関する講習会」を開催します



アスベスト(石綿)は過去に建築物等の材料として多く使用されており、アスベストが使用されている建築物等の解体作業を行うときは、大気中に飛散させないように、大気汚染防止法等に基づき、適切な措置をとることが重要です。

このため愛知県では、今年度、アスベストの飛散防止対策等に関する講習会を全3回シリーズで開催することとしており、このたび、第1回の講習会を開催しますので、是非ご参加ください。

- 1 日時 9月10日(火) 13:00～15:30
- 2 場所 名古屋市工業研究所 管理棟1階ホール
(名古屋市熱田区六番3-4-41)
- 3 主な内容
講演：「石綿の基礎知識と各省庁の動向」
講師：(一社)建築物石綿含有建材調査者協会
副代表理事 ^{とやま なおき} 外山 尚紀 氏
- 4 定員・参加費 250名(申込先着順)・無料

- 5 主催 愛知県アスベスト対策協議会
愛知県
名古屋市

6 申込方法

①社名・団体名 ②所属 ③氏名 ④参加人数
⑤連絡先(電話番号、FAX番号、Eメールアドレス)
を記載の上、FAX又はEメールによりお申し込みください。

7 申込先

環境局環境政策部水大気環境課

FAX：052-961-4025

Eメール：mizutaiki@pref.aichi.lg.jp

詳細は、Webページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/mizutaiki/asbestos010910.html>)

〔水大気環境課 大気規制グループ
電話 052-954-6215 (ダイヤルイン)〕

1 8月の天候の見通し

今年の7月は曇りや雨の日が多く、キュウリ・ナスなどの夏野菜の価格が高騰するなど、日照不足の影響が見受けられましたが、名古屋地方気象台の予報では、8月の東海地方の気温・降水量はいずれも「ほぼ平年並の見込み」で晴れの日が多いと予測しています。

2 大雨の頻度増加と災害リスクの拡大

近年、この時期(7~9月)は大雨による災害が毎年のように発生しており、昨年、西日本を中心に災害をもたらした「平成30年7月豪雨」では広い範囲で強い雨が降り続き、総降水量が1,000mm以上に達したところがいくつもありました。

気象庁では、「数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨」を「記録的短時間大雨情報」として発表しており、これは7~9月に集中しています。特に8月は年間で最も発表の多い月となっており、2017年・2018年と過去の発表回数を大幅に更新しています(表1・表2)。

大雨の頻度増加などの気候変動に伴い、かつて想定したことのないような災害が頻発するようになってきました。今後想定されるリスクとしては、住民が長時間孤立することや、道路の冠水や地下街への浸水、サプライチェーンの寸断などによる経済活動への打撃など、様々な影響が考えられます。

また、内閣府(防災担当)は「避難勧告等に関するガイドライン」を改訂(2019年3月)し、「住民は『自らの命は自らが守る』意識を持ち、自らの判断で避難行動をとる」方針に沿って警戒レベルを5段階表記して防災情報が提供されることとなりました。

3 水害に対する適応策

都市の地表面はコンクリートやアスファルトが多いことから水が地下に浸透しにくく、大雨による浸水被害が発生しやすいため、「浸透ます」などによる雨水の浸透や「雨水貯留タンク」の利用が挙げられます。

これらは浸水対策の他、地下水を涵養することで

地盤沈下の防止や、地下水の一部が蒸発する際に熱を奪うことによるヒートアイランド現象の緩和等にもなるといわれています。

市町村によっては、雨水流出抑制施設(浸透施設、貯留施設)について設置工事費の一部を補助していますので、興味を持たれた方は是非、管轄の市町村までお問合せください。

4 雨水の利用による緩和策

2017年度における家庭からのCO₂排出量(用途別)の約2%は、水道利用によるものです(図1)。

前述の貯留施設で貯めた雨水を、ガーデニングの散水や洗車等に使用するなど、上手に活用すればCO₂排出量の抑制(緩和策)になり、節水にも繋がりますので、地球にも家計にもやさしい活動に取り組んでいきましょう。

表1 記録的短時間大雨情報の月別発表回数(2013~2018年)

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
回数	1	0	0	6	0	27

月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
回数	123	159	124	17	1	0

表2 記録的短時間大雨情報の年別発表回数(2013~2018年)

年	2013	2014	2015	2016	2017	2018
回数	77	53	38	58	109	123

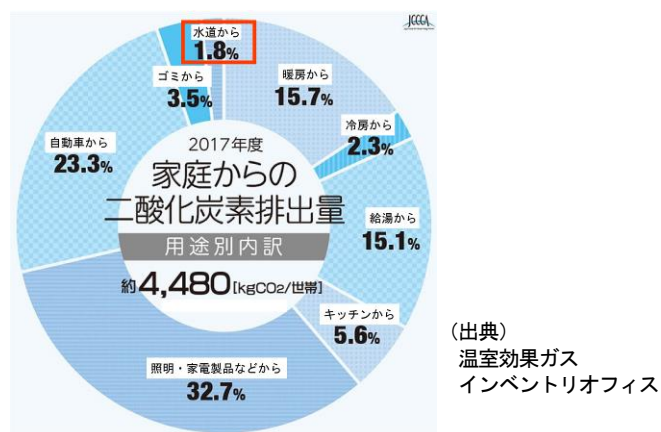


図1 2017年度 家庭からのCO₂排出量(世帯当たり、用途別)

〔環境調査センター 企画情報部
電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)〕



高校生が専門家等の支援を受けながら、環境問題について調査・研究を行い、その結果を基に環境学習教材を作成する「あいちの未来クリエイト部」の活動が2017年度から行われています。6月号から3回にわたり、昨年度参加した3グループが作成した教材を紹介しています。

最終回となる今回は、「中部大学第一高等学校 科学部」の皆さんが作成した教材です。

絶滅危惧種である魚類のウシモツゴについて知ってもらうために、2種類の教材が作成されました。



ウシモツゴタワーバトル

「ウシモツゴタワーバトル」は、トランプと積み木くずしゲームをモチーフにしたゲームです。このゲームでは、ウシモツゴの特徴や生息環境、外来種に関するクイズが出題される場面もあります。東海三県にしか分布していないウシモツゴの生態が、絶妙なバランスによって保たれていることを、楽しみながら感じることができます。



ウシモツゴを探せ！ウシモツGO！！

「ウシモツゴを探せ！ウシモツGO！！」は、ウシモツゴになりきり、石や水草を使って外来種から身を隠すゲームです。体を動かしながら、外来種から追われるウシモツゴの恐怖感を体験し、生態系や環境の大切さを学ぶことができます。

2種類の教材を通して、外来種の放流や環境汚染により、ウシモツゴの個体数や生息地が減っていることが分かり、ウシモツゴが生きるためにはどのような環境が必要か、また、それを守るためにはどうしたら良いかを考えることができます。

あいちの未来クリエイト部では他にも様々な教材が作成され、全て貸出しを行っていますので、是非ご利用ください。詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/>

[kankyokatsudo/program.html](https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/program.html))

環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208 (ダイヤルイン)

愛知県環境情報紙「環境かわら版」
令和元年8月5日発行(第279号)
編集・発行 愛知県環境調査センター
企画情報部
〒462-0032 名古屋市北区辻町字流 7-6
電話 052-910-5489(ダイヤルイン)

編集後記

暑い夏、野外で食べるスイカはとても美味しいです。潮風の干や、川の音、セミの鳴き声の側で食べる甘く美味しいスイカ。そのような体験、皆さんにもありませんか。野外でスイカを冷やす方法は、流れる川や井戸水に浸すなど。スイカは冷やすことで甘みがまし、甘みを上手に引き出す温度は5度～15度といわれています。冷やしすぎず自然を活用した冷やし方が、スイカを甘く美味しくする秘訣のひとつかもしれません。(企画・編集チーム)

※ この環境かわら版は、環境局Webページ「あいちの環境」<https://www.pref.aichi.jp/kankyo/>でも発信しており、写真等をカラーでご覧いただけます。この記事は広報紙等へ再掲していただきますようお願いいたします。